



令和7年 3月 24日
年度末号 No.472
発行責任者
校長 西村 学徳
所在地 福生市熊川 623

子供たちの素敵な姿と令和7年度への期待

校長 西村 学徳

3月とは思えない雪に驚かされた上旬でしたが、その後は一気に春の陽気となり、大きなカエルの姿も観察池で見られ、子供たちを楽しませてくれています。

本日、修了式を無事に行うことができ、担任から一人一人の児童に思いを込めながら通知表を手渡しました。この1年間、よく努力し、力を伸ばすことができた子供たちです。ぜひ、ご家庭でもお子様の成長をお子様とともに振り返り、たくさん褒めていただきたいと思います。そして、明日はいよいよ6年生の卒業式です。福生二小を立派に巣立っていく6年生の子供たちの新たな出発を心からお祝いしたいと思います。

さて、この3学期も子供たちの素敵な姿がたくさん見られました。その中から特に印象に残った6年生を送る会の様子を紹介します。会自体は昼からでしたが、朝の会の時間帯に早速2年生から6年生への手作りメダルのサプライズプレゼント。よく見ると金ピカのメダル1つ1つには、メッセージが書かれていました。6年生の教室で、緊張の面持ちで6年生の首にメダルをかける2年生。その2年生を優しい眼差しで見つめる6年生。心が温くなる光景でした。多くの6年生が一日中、そのメダルをかけて過ごす姿にも嬉しくなりました。昼過ぎから始まった会では、6年生は1年生のエスコートを受け、3年生の花のアーチをくぐって入場。「私も6年前はこんなに小さかったのかぁ。」とはにかみながら話している6年生の姿があり、この6年間の成長を実感しているようでした。会では、各学年からお祝いの出し物の発表があり、全ての学年で、実行委員を中心に内容を考え、練習してきたとのこと。子供たちの豊かな発想に感心するとともに、自分たちで考えて作ったからこそ伝わってくる「6年生を喜ばせたい!」「6年生に感謝の思いを伝えたい!」という下級生の強い思い。6年生もその思いに応える形で素晴らしい発表を披露してくれました。

この1年間、本校は、たてわり班を中心とした異学年交流を様々な場面で重視してきました。その中で、上級生は下級生を思いやる心を、下級生は上級生を敬う心を育んできました。まさに、二小のよさが色濃く出た「6年生を送る会」だったと思います。改めて二小や二小の子供たちの素晴らしさを感じる1日となりました。

そして、4月からは、現5年生が4月から最上級生となります。この3学期、4月からを見据え、最上級生への心構えを作ってきた5年生。展覧会の片付けや卒業式の会場準備での行動も立派で、特に2月に行われた幼保小交流会での園児に関わる姿は、4月からの活躍を大いに期待させるものでした。また、どの学年の子供たちもこの1年間、大きく成長してきました。今年度培ってきたものを大切に、令和7年度も子供たちと前進していきます。保護者・地域の皆様、本校の教育活動へのお力添え、ありがとうございました。心より御礼申し上げます。